

宇土市ファミサポ通信 No.24

令和5年6月発行

令和5年度がスタートし2か月が過ぎ、ファミリーサポートセンターも新しい出会いに気持ちを弾ませています。新型コロナウイルス感染症も5月8日から5類感染症に変更され、少しずつ窮屈な生活から解放されつつありますが、ファミリーサポートセンターでは基本的な感染対策は引き続き実施しながら安心して活動ができるように努めて行きたいと思っています。

さて、宇土市ファミリーサポートセンター事業は本年度で15年目を迎えました。昨年度は139件の活動が行われ、子育て中のお父さん、お母さんのお手伝いできたことを嬉しく思っています。そして、何よりも活動を快く引き受けてくださる協力会員さんに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも安心して子育てができるようにサポートをさせていただきますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。子育てで困った時は子育て支援課にご相談ください。

宇土市の自慢



昨年、宇土市長部田海床路の入り口にワンピースの最後の銅像が建てられました。皆さん、もう見に行かれましたか？ 熊本地震の復興を願い建てられた銅像の中で一番大きい『ジンベエ』像です。宇土市のホームページに、フォトコンテストで入賞された『ジンベエ』像と干潟や海床路の写真が紹介されています。満潮時・干潮時の有明海と銅像、沈んでいく夕日で赤く染まった干潟と銅像、それぞれの季節で違った美しさを見せてくれます。是非一度、見に行かれてみてはいかがでしょうか。すばらしい景色です。また干潮時は海床路を歩くことができます。

協力会員募集



宇土市のファミリーサポートセンターは、現在53名の方が協力会員登録されています。実際に子育てのサポートをしてくださっている協力会員は10名程です。毎月平均20件ほどの活動が行われていて、フルで活動を引き受けていただいております。しかしながら実働できる協力会員の少なさで、マッチングが出来なかったり、送迎の依頼もお断りせざるを得ない状況です。そこでサポートをして頂ける協力会員を募集します。子育ての応援ができる方、また依頼会員でお願いしていたけど、子どもの手が離れた方で協力会員として子育てのお手伝いをしてほしいなあと思われる方、ぜひご連絡ください。
(問い合わせ先…子育て支援課 子ども家庭支援係まで)

出産から数か月が経つと動きも活発になり目が離せません。成長の証しなので嬉しい反面、子育てに休みがないお母さん達は、『ゆっくり買い物したいなあ!』『自分の時間がほしいなあ!』と思いますよね。そんな時、ファミリーサポートセンターに預けてリフレッシュしませんか? 助け合う会員制のファミリーサポートセンター事業はおおむね生後3か月から利用ができます。昨年度は、お母さんの通院治療、美容室、整体、お買い物などで依頼があり、3~4時間の預かりの活動をたくさん引き受けました。活動の様子を紹介します。

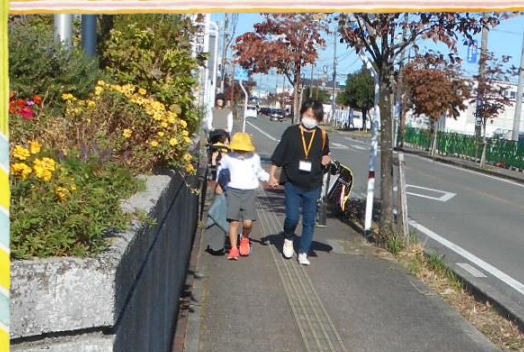
活動内容:

お母さんの仕事や通院での預かり



活動内容:

小学校へのお迎えから児童センターでの預かり



協力会員さんの感想

学校に迎えに行くとき笑顔で走って来てくれます。児童センターまでの道のりもいろいろな話をしてくれて、とても楽しく活動しています。協力会員になり最初は、他人の子どもさんと接することに緊張していましたが、今では子どもさんの愛らしさや、可愛い仕草にとっても癒されています。いくつになっても何か社会の役に立てることはとても有難いことだと思っています。ファミサポの活動は私の生きがいであり、楽しみになっています。

